円心くんの まちの話題

次は世界を目指せ!!
浅越しのぶさんテニス全日本選手権を制覇

十一月十四日(日)有明コロシアムで開催されたテニスの全日本選手権で、上郡町出身の浅越しのぶさん（NEC）が、女子シングルス・ダブルスの二種目で優勝する快挙を成し遂げ、十六日(火)に上郡町役場へ報告に訪れました。

浅越さんは高田小学校卒業後、園田学園中学・高校・女子大へと女子テニス界の王道を進まれ、現在はNECに所属してプロ活動をされています。

今回も海外遠征から帰ってすぐの快挙で、疲れは残っていたものの気力をしぼってがんばったそうです。単複制覇は十四年ぶりのことでもあり、テニス界での評価もうなぎ上りです。世界で活躍できるテニスプレーヤーとして大きな期待を寄せられています。

今後ますますの活躍のため、皆様のご声援をお願いします。

全国制覇おめでとうございます

青少年の育成に尽力
栗原の小林飛登志さんが藍綬褒章を受章

十一月三日秋の褒章が発表され、上郡町では栗原の小林飛登志さんが藍綬褒章を受章されました。

小林さんは保護司歴二十三年のベテランで、上郡町・赤穂市・相生市の二市一町からなる保護司会の会長も勤められています。これまで多くの非行や犯罪を犯した青少年らを、地域の中で更生してもらうよう見守ってきました。

保護司をしていて最もうれしいことは、非行や犯罪を犯した青少年らが、保護観察処分を解除された後、他の人々と同じように地域の中で生活していく姿を見ることだそうです。

しかし、昔に比べると今の子供たちは、約束が守れなかったり、何かと自分本意な考え方をする子らが増えているといいます。

小林さんは「これからの保護司は、保護が必要になった子らの世話だけでなく、犯罪予防活動を通じて地域の浄化を進めていくことが大切だ。」と話されていました。

晴れの褒章を受けられた小林飛登志さん

「ばばばあちゃん」大好き!!
上郡読書シンポジウム　大盛況

十一月七日(日)中央公民館で、子供たちに大人気の「ばばばあちゃん」シリーズでお馴染みのさとうわきこ先生を講師としてお招きし、第九回上郡読書シンポジウムが開催されました。

夏頃より、町内の小学校に質問箱を設置し、さとう先生への手紙や質問を募集しましたところ、五百点以上集まり、検討の結果質問者として、

高野絵梨さん（上小1年）
岩原伸さん（山小1年）
井原智則さん（高小5年）
金川いつかさん（鞍小4年）
河野美砂さん（赤小2年）
正池彩夏さん（船小6年）
山元美柚木さん（梨小2年）

の七名が選ばれました。

「『じじいちゃん』を登場させて！」などという子供たちの素直な質問に対し真剣にお答えいただく姿や、「えほんとわたし」と題した講演でも、私は何にでも挑戦する人・辛いことでも楽しいこととして考える人など、身近なお話にさとう先生のお人柄を伺うことができました。

また、原画展及び保育所・幼稚園児二百五十人によるつぶやき画展も同時開催され、原画と絵本を見比べた子の中には「本とおんなじや！」と感激する幼児の姿もあり、大変微笑ましい様子でした。早くも「次年度の講師は？」という期待の声もあります。

代表して質問した7名のみなさん

講演されるさとう先生

商工業のさらなる発展を願って
第十回商工まつりを開催

十一月七日(日)、役場駐車場で、第十回商工まつりが行われました。地域の商工振興と活性化を目指して、商工会加盟店を中心として多くの店舗が出店し、会場は、買い物やイベントに訪れた多くの方々で賑わいました。

豪華賞品が当たる抽選会は、午前と午後の二回に分けて行われました。

大声コンテストでは、町内外から老若男女二十名の参加者があり、おなかの底から大声を出して、日頃のうっぷんを晴らしていました。

その他にも、円心くんカードが満点になった人を対象とした抽選会や、商工会の婦人部が出店した円心モロどんなどのバザー、ゲーム機も当たるダーツゲームなどが人気を集めていました。

抽選会に集まった皆さん

私達の健康は私達の手で!!
上郡町いずみ会が健康まつりで展示

上郡町いずみ会では、年間計画の一つで「減塩と糖尿病について」の学習を行っていましたが、十月三十一日(日)に行なわれた健康まつりで、学習成果を生かした展示などを行いました。

パネル展示コーナーでは、天然塩と精製塩の違いを実際に舌で味わっていただき、インスタント食品やスナック菓子に多量の塩分が含まれていることを来ていただいた方に知ってもらいました。また、実演販売コーナーでは、減塩に配慮したたきこみ御飯とうどんを販売し、大変好評でした。

高宮会長は、「みんなの健康のために、我が家のみそ汁の塩分測定など、身近なことを通して減塩の大切さを家庭に浸透させていきたい」と語っていました。

いずみ会のパネル展示

老人ホームでお祭りだ!!
赤松小学校二年生がほうらいの里を慰問

十一月十八日(木)赤松小学校の二年生十七名がほうらいの里を訪れました。

最初にお土産に持参した、小学校で一人ひとりが丹精こめて育て上げた菊の花を手渡しました。今年は、例年に比べ気候が悪かったのか、菊がなかなか咲かず、苦労したそうです。

次に、合奏を披露し盛んな拍手を浴びた後、手づくりの獅子で獅子舞を披露したり、手づくりのみこしを担いで練り歩くなど会場のホールはさながらお祭りのようになりました。それを見つめるお年寄りの方たちも大変楽しそうでした

今年二回目の訪問ともあって児童らの表情も一回目よりほぐれて、ほうらいの里での交流を楽しんでいるようでした。

手づくりの獅子で獅子舞

菊の花をどうぞ！